

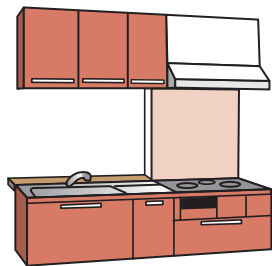
水回りの寿命と リフォームのタイミング

蛇口から水漏れ、排水口のつまり、トイレの水の流れが悪いなど、キッチンやお風呂、トイレなどの水回りの設備は、建てた時の設備のまま永久に使えるものではありません。古い設備の場合は部品が製造中止で修理ができなくなることもあります。何年か先に訪れるリフォームのことも常々意識しておきましょう。

新築時に備えたキッチンやお風呂、トイレなどの水回りの設備は、一般的に10～15年ほどの寿命といわれています。年月が経つと、少しずつ不具合が出始め、「突然使えなくなってしま」「修理しようにも、部品が製造終了で直せない」…そんなことも。毎日使うキッチンやお風呂、トイレが使えなくなると、本当に困りますよね。だからこそ、寿命を視野に入れ早めの対策を考えておくことが大切です。

キッチンの リフォームのめやす 10～20年

家族の食事を作る大切な場所であるキッチン。毎日使う場所だからこそ、少しずつ不具合が出てくるのは避けられません。もちろん、修理しながら使い続けることもできますが、排水管やガスコンロ、IHクッキングヒーターなどの設備機器の耐用年数は10～15年程度なので、10～20年を目安にリフォームを検討する方も多く見られます。なお、使い方や日頃の手入れ次第で寿命は延ばすことも可能です。



お風呂の リフォームのめやす 10～15年

お風呂場は、体を清潔に保ち、疲れを癒す大切な空間。毎日使うため故障や不具合が起こりやすく、修理より全面リフォームを選ぶ方も多くいます。リフォームの目安は10～15年。排水管や浴槽などの設備の耐用年数がこの期間にあたるためです。水気が多い場所なので、長年使うとカビや腐食が目立ちます。掃除でも汚れが落ちにくくなったら、リフォームのタイミングかもしれません。最新の省エネ設備に替えることで、水道・光熱費の節約にもつながります。



配管は約20年が寿命とされています。使用頻度が高い家庭では、さらに早まることも。

水道が故障して慌てて悪質な水道業者に依頼してしまうと、費用や内容を十分に確認できずトラブルになることもあるので、異臭や異音などの初期サインに気づいたら、大事に至る前に、早めに信頼できる水道業者に相談すると安心です。

トイレの リフォームのめやす 10～15年

毎日使うトイレは、時間が経つにつれて不具合が出てくる可能性があります。修理を重ねて使い続けることもできますが、10～15年を目安にリフォームを検討するのがおすすめです。便座は比較的長持ちしますが、タンク内の部品は約10年、パッキンや

